

本日は「大難が小難・小難が無難」について話をさせていただきます。

私たちは会主さま大導師さまから、妙智の教えを行っていると、大難が小難、小難が無難になりますと頂いております。

しかし本当は、そうなった時の私たちの受け止め方が大切であり、それによって私たちの結果が大きく変わるのです。

今日まで私たちは「お陰さま」という言葉を使っております。

しかし、どのような心で「お陰さま」と言ったが大切です。

皆さんは、教団で結果を頂いたことで「お陰さま」と言いますが、それを普段の生活の中の「お陰さま」と同じ軽さで使っているから、次にいろんな事が出てきてしまうのです。

「お陰さま」という言葉の中にある私たちの心は、普通に使う時と教団で使う時とが同じではいけないのです。

ここをしっかりと区別をしなければいけないのです。

会主さまは「お陰さまという結果の功德はありますけれども、その時の心の作り方が大切です」とご指導を下さっております。

そして「お陰さまと言った時の自分の心を自分で見ていく事が大切です。これが大きな功德です」と仰っておりました。

ただ喜ぶのではなく「まだまだ足りていないのに結果を頂けた」と受け止める事が肝要です。

そう受け止めることによって、懺悔や感謝が出来るのです。

増上慢のお陰さまになってしまいますと、今よりも大きな病気や大変な事が起きてしまいます。

どんなときでも会主さまは「心と根性」そして、「根性を改めなさい」とおっしゃいました。

大難が小難のときの根性、皆さんの心次第なのです。

また小難が無難の時は「何もないことに感謝しなさい。それがなくなったらおしまいなんだよ。こんな自分なのに、こんなに懺悔も感謝もない自分なのに、今日 1 日何もなかった。ありがたいと思いなさいよ」とおっしゃっておりました。

そして大導師さまからは「お経の前と後に、自分を見つめ直す時間を少しでも作る事が肝要です」とご指導を頂いております。

自分を見つめ直した時に、ご先祖さまに対しても思いを寄せ、ご先祖さまが霊界でご守護を下さっていることを感じてください。

会主さま大導師さまも「大難が小難・小難が無難」の様に私たちが信じて、霊界から私たちを守って下さっています。

どうぞ皆さま、会主さま大導師さまのこの素晴らしいみ教えを信じ、素直になって、自分を見つめ直し、今からもう一度ご修行をして頂きたく事をお願い致します。